

琵琶湖疏水を巡る

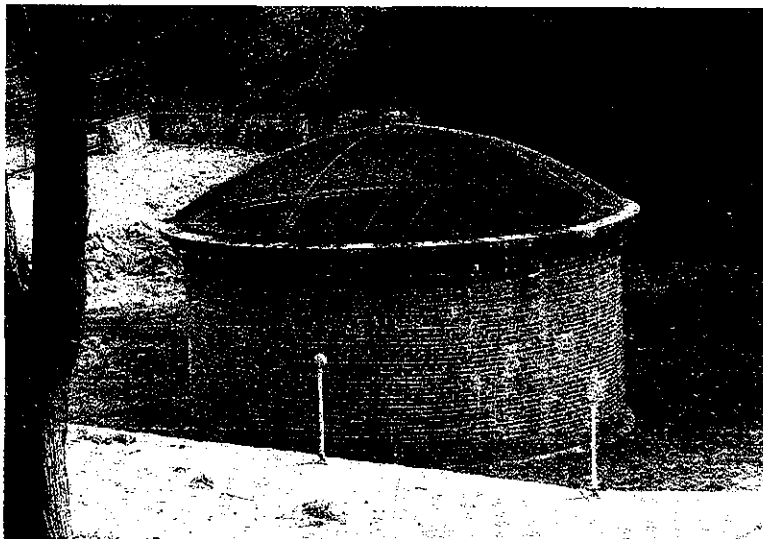
(安祥寺水路橋～琵琶湖疏水取水口)

実施日 令和5年5月7日(日)

<集合> JR 高槻駅改札外 午前10時

(企画・案内 吉村治郎)

【行程】 JR山科駅改札外(10時40分)→A 安祥寺川水路橋→B 諸羽トンネル入口→C 疏水公園で昼食(WC)→D 諸羽トンネル出口→E 疏水第1トンネル出口→F 第二堅抗(これから小関越えに入ります)→G 第一堅抗→H 喜一堂(峠の地蔵さん)→I 小関越道標→J 長等神社→K 疏水第1トンネル入口→L 大津閘門→M 第1疏水取水口→N 第2疏水取水口(解散)(FからIの間が山越えルート約1時間) JR山科駅からの距離 約7km



第一堅抗

関西歴史散歩の会

代表 久野 洋人 携帯 090-1583-9781

交通ルールを、守りましょう。

事故災害について、当会は一切責任を負いません。

安祥寺川水路橋

琵琶湖疏水を建造するとなると、大文字山の南斜面を水源として南下し、山科盆地に向って流れている安祥寺川をクロスすることになります。そのため疏水路の下に、安祥寺川が流れるように立体交差させたのが安祥寺川水路橋で、明治 20 年に造られました。

諸羽トンネル

昭和 44 年 11 月 1 日に江若鉄道（浜大津駅—近江今津駅間）が廃止されましたが、それに合わせた湖西線の新設工事で、疏水を山科駅から離して直線状に流すために開削し、昭和 45 年に完成させたのが諸羽トンネルです。

国鉄湖西線（山科駅—近江塩津駅間 74.1km）は昭和 49 年 7 月 20 日に開通しました。

疏水第 1 トンネル

疏水工事の中で最難関だったのが第一トンネル（長等山トンネル）の開削で、長さは 2436m、当時としては日本最長でした。明治 18 年(1885) 6 月から始まって第一堅坑が設けられてからは、四箇所から開削が行なわれることになり、明治 23 年(1890)3 月に開通、4 年 8 ヶ月の歳月でもって竣工しました。

西口（出口）上部の扁額には、「廓其有容」（かくとしてそれいることあり）と刻まれています。「疏水をたたえて悠然と広がる大地は、すべてを受け入れる器を有している」という意味で、揮毫者は山県有朋です。

東口（入口）上部の扁額には、「氣象萬千」（きしょうばんせん）と刻まれています。「様々に変化する風光はすばらしい」という意味で、揮毫者は伊藤博文です。

第二堅坑

西口より 297m のところに設けられた深さ 22.7m、直径 2.6m の通風が目的の坑です。

第一堅坑

西口より 733m、東口より 1678m のところに設けられ、深さは約 47m、穴の大きさは上部 5.5m までは直径 5.5m の円形、それ以下は東西 3.15m、南北 2.7m の楕円形で、所々に足場が設けられ、堅坑上部の人力巻上機を使用し人や物を上下に移動させました。

第一トンネルの南北両端とトンネル内から東西出入り口に向って、計四箇所から開削が進められました。

喜一堂（峠の地藏さん）

峠手前にある地藏堂で、1980 年代に道路工事が行なわれた際、草叢に放置された地藏尊が見つかり、現在地に祀られたのが始まりらしい。御堂が建てられたのは 1989 年のことで、喜一堂という名は、大津市横木在住の松井喜一氏が、付近に散在していた地藏を集めて祠を建てたことによるともいう。

小関越道標

北国海道（西近江路）から分れて藤尾で東海道に合流する約 5 km の道は、かつて東海道の間道として利用され、小関越と呼ばれていました。

この道標が立つのは、小関越から三井寺へ向かう道の分岐点にあたります。江戸時代中頃の建立で、高さは約 95 cm あります。三面には「左り三井寺 是より半丁」「右小関越 三条五条いまくま 京道」「右三井寺」と刻まれています。

三井寺は西国三十三所観音巡礼の第十四番札所として多くの参拝者がありました。刻銘の「いまくま」は第十五番札所の京都今熊野観音のことで、この道が巡礼道であったことを示す資料ともなっています。

「かたゝげんべゑのくび」碑

1465（寛正 6）年のこと。延暦寺の衆徒によって、京都の大谷本願寺が焼き討ちされた時に、室町時代の浄土真宗の僧・蓮如が、宗祖親鸞の木像を三井寺に預けて諸国を旅しました。その後、山城の山科に本願寺を建立する時に「あの時預けた木像を返していただきたい」と三井寺を再び訪ねました。

ところが三井寺の僧侶たちは、何度足を運んでも親鸞の像を返してくれません。ご真影のおかげで、参拝客が増えたので返したくないのです。そして、「返して欲しければ生首を二つを持ってこい」と難題をふっかけてきました。

それを聞いて腹を立てたのは、信心深い堅田の漁師・源右衛門です。源右衛門は息子の源兵衛によく言って聞かせると、息子はお父さんよく分かりましたと頷きました。源右衛門は息子・源兵衛の首を切り落としました。

そして三井寺の門前に足を運ぶと「これは息子の首だ！ そしてわしの首も切れば、約束の生首二つだ！」と叫びました。三井寺の僧たちはびっくりして親鸞の木像を蓮如に返してくれたということです。

長等神社

長等神社は、西暦 667 年頃の天智天皇の御世、近江大津宮の鎮護として長等山岩座谷の霊地に須佐之男命を祭祀されたことを起源とする 1300 年の歴史を持つ神社です。

第 2 疏水

明治 20 年代後半にもなると、第 1 疏水の流量では毎年増大する電力の需要が満たせなくなり、また、地下水にたよっていた市民の飲料水が質・量ともに問題となってきました。

そのため、田邊朔郎の進言を受けた初代京都市長 内貴甚三郎は、第 2 疏水建設の構想を打ち立てます。内貴は構想の実現を待たずに任期を終えますが、その構想は、第 2 代京都市長 西郷菊次郎へと引き継がれました。西郷は、三大事業（第 2 琵琶湖疏水の建設・上水道の布設・道路拡築及び市電の敷設）の実現に向けて奔走しました。第 2 疏水はその事業の中核として明治 41（1908）年に着工し、明治 45（1912）年に完成しました。

この第 2 疏水の流量は、毎秒 15.3 m³で、大津市観音寺の始点から第 1 疏水の北側にほぼ平行して建設されました。全長約 7.4km の流れは、蹴上で第 1 疏水に合流しています。

山科区

